科目名	絵画表現基礎 Ｉ Ａ						
授業コード	2890	授業科目名	絵画表現基礎 Ｉ Ａ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身の周りの生活空間に注目し選び出した植物や器物などを対象に「静物画」を制作する。作者の興味を基にした取材を通して、静物の構造や環境性の把握、明暗と色彩の関係、構成や構図と言った画面の内外への造形的視点を養うと共に、油彩絵具やアクリル絵具を用いた制作を実践し、各描画材が持っている特性や色彩の扱いを体得しながら独自の絵画表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題　「静物を描く」
1-1　植物や器物などの静物を対象に様々な視点から取材をする。
1-2　1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　植物や器物などの静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2024年度』の「絵画表現基礎 IA」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画表現基礎 IA・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には通信授業課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 Ｉ Ｂ						
授業コード	2900	授業科目名	絵画表現基礎 Ｉ Ｂ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日頃目にしている物が、モチーフとして目の前に置かれることで日常的な用途の意味から切離され、光の反射によって造形物としての純粋な形、色、質感、性質が浮び上がります。
この授業ではモチーフを通してそれらを捉えることから始まり、対象物と向き合いながら、そこにおける自らの関心や視点を探ります。

【課題の概要】

○面接授業課題「静物を描く」
1-1　組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由
1-2　組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。１５～２０号キャンバス

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第２日　午前：制作　午後：制作
第３日　午前：制作　午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第５日　午前：制作　午後：制作
第６日　午前：制作　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 ⅢA						
授業コード	2910	授業科目名	絵画表現 ⅢA			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。身近な人物や自然をじっくりと観察し、そこで得られた発見を通して、それぞれの表現に結び付けていく。

【課題の概要】

○通信授業課題「観察と表現」
1-1　「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　「1-1」を基に、エスキースを制作する。
1-3　「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA　2024年度』の「絵画表現ⅢA」を参照。
教科書『絵画の材料』および 教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）

○学習指導書
『絵画表現ⅢA・ⅣA　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には通信授業課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 Ⅲ B						
授業コード	2920	授業科目名	絵画表現 Ⅲ B			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに、人物と植物を組み合わせた制作を行い、表現の多様性を知る。じっくりと観察することでそれぞれの関心の対象が異なることを知り、それに伴う表現を探求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「観察と表現」
1-1　人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、クロッキーまたはドローイングをする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさのエスキースを制作する。描画材は自由。 クロッキー、ドローイングを複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。支持体は 30 号キャンバス。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
第 2 日　午前：制作／午後：制作
第 3 日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第 4 日　午前：制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第 5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 ⅣA						
授業コード	2930	授業科目名	絵画表現 ⅣA			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。今日の絵画においては、さまざまな空間表現が試みられている。この科目では植物と室内風景をモチーフに、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標である。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間と構成」
1-1　植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。
1-2　1-1を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。
1-3　エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA　2024年度』の「絵画表現ⅣA」を参照。
教科書『絵画の材料』および 教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）

○学習指導書
『絵画表現ⅢA・ⅣA 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には通信授業課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具について」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 ⅣB						
授業コード	2940	授業科目名	絵画表現 ⅣB			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松村繁講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。人体をモチーフに、さまざまな取材を行い、それを基に構成して描くことで、それぞれの求める空間がどのようなものなのかを確認する。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題「空間と構成」
1-1　人物（ヌード）の固定ポーズ、短時間ポーズ、ムービングなどを通して、さまざまな取材をする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさに構成したエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー等を複数枚とエスキースを最低1枚提出。
1-2　エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。30～40号程度キャンバス。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 ＶＡ						
授業コード	2950	授業科目名	絵画表現 ＶＡ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「明暗と色彩」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結び付けることを試みる。また、絵具をはじめとするマチエールの働きも理解する。

【課題の概要】

「明暗と色彩」
1-1　静物を組み、明暗を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。
1-2　同じ静物を対象に、色彩を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。
1-3　明暗または色彩を重視した平面作品を油彩またはアクリルで制作する。30～40号程度1点提出。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ＶＡ～ⅥA　2024年度』の「絵画表現ＶＡ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）

○学習指導書
『絵画表現ＶＡ～ⅥA　2024年度』（武蔵野美術大学出版局　2024年）

【その他】

初学者には通信授業課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画、アクリル画の道具について」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現 ＶＢ						
授業コード	2960	授業科目名	絵画表現 ＶＢ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「明暗と色彩」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結びつけることを試みる。また、絵具をはじめとするマチエールの働きも理解する。

【課題の概要】

○面接授業課題
「明暗と色彩」
1-1　静物を組み、明暗または色彩を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。
1-2　1-1を基に、明暗または色彩を重視した平面作品を油彩またはアクリルで制作する。30～40号程度1点提出。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び制作／午後：制作（ドローイングまたはデッサン）
第２日　午前：制作／午後：制作
第３日　午前：制作／午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
第５日　午前：制作／午後：制作
第６日　午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 VIA						
授業コード	2970	授業科目名	絵画表現 VIA			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」－「見つける、集める、描いてみる」
この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かが展開するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する。描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付きようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

【課題の概要】

「表現の可能性とテーマの追求」－「見つける、集める、描いてみる」
1-1　人、物、風景、空間、印刷媒体、写真などから「描いてみたい」と感じるものを見つけ、クロッキーをしながら取材をする。
1-2　「1-1」を基に構成的なドローイングとエスキースを制作する。
1-3　「1-2」を基に表現の可能性を試みながら平面作品を制作する。また、テーマやモチーフについて考えたことや感じたことを400字程度にまとめる。

【授業計画】

学習指導書『絵画表現ＶA・VIA　2024年度』の「絵画表現VIA」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　考
絵画表現コース必修科目。
絵画表現コース1、2年次必修科目の単位を修得済か同時履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画表現ＶＡ・VIA　2024年度』（武蔵野美術大学出版局　2024年）

【その他】

なし

科目名	絵画表現 VIB						
授業コード	2980	授業科目名	絵画表現 VIB			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、水上泰財教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、町田久美教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かが展開するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する、描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付きようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

【課題の概要】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
1-1　複数枚のドローイングと大エスキース（B2サイズ以上）を最低1枚制作する。描画材は自由。制作したすべてのエスキースを提出する。
1-2　「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩またはそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で30～40号の大きさ。1点提出。

【授業計画】

第１日　午前：前提講義及び制作　午後：制作
第２日　午前：制作　午後：制作
第３日　午前：制作　午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：制作　午後：制作（平面作品）
第５日　午前：制作　午後：制作
第６日　午前：制作　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。
絵画表現コース1、2年次必修科目の単位を修得済か同時履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現演習						
授業コード	2990	授業科目名	絵画表現演習			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授
開講期間	通年	単位数	1単位（S1）	学年	3〜4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

絵画表現に向かう上で、テーマやモチーフ、素材や手法など、それぞれが見出していかなければならない。さまざまな作家の例を取り上げて参考にし、発見の手がかりとする。また、卒業制作に向けてのガイダンスを行い、それぞれの計画を立てる。

【課題の概要】

○面接授業課題
さまざまな作家の研究を行う。また、卒業制作までの計画を立てる。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：講義／午後：講義および演習
第２日　午前：講義および演習／午後：演習とレポート作成

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次〜

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 ⅦA						
授業コード	3000	授業科目名	絵画表現 ⅦA			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、小林孝亘教授、諏訪敦教授、町田久美教授、丸山直文教授、水上泰財教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山晶子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「自主制作」
造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。
各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

【課題の概要】

1-1　卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等のあらゆるものをF10号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。
1-2　「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。

【授業計画】

学習指導書『絵画表現ⅦA/卒業制作 2024年度』の「絵画表現ⅦA」を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。
教科書『絵画の表現』を参照。
教科書『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
油絵学科に所属していること。
絵画表現コース3年次必修科目を修得済か同時履修していること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画表現ⅦA/卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	絵画表現 ⅦB						
授業コード	3010	授業科目名	絵画表現 ⅦB			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、小林孝亘教授、諏訪敦教授、町田久美教授、丸山直文教授、水上泰財教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山晶子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「自主制作」
造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につなげるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。
各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

【課題の概要】

1-1　「絵画表現ⅦA」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）でB1または倍判木炭紙大程度。描画材は自由。
1-2　「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で40～50号程度、描画材は自由。

【授業計画】

第１日　午前：前提講義及び制作　午後：制作（制作ノート・エスキース制作）
第２日　午前：制作　午後：制作
第３日　午前：制作　午後：制作及び採点・中間講評
第４日　午前：制作　午後：制作（平面作品）
第５日　午前：制作　午後：制作
第６日　午前：制作　午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
油絵学科に所属していること。
絵画表現コース3年次必修科目を修得済か同時履修していること。

○備考
「絵画表現ⅦA」に取り組んでいることが望ましい。
スクーリング受講条件：「絵画表現ⅦA」の「制作ノート」を持参すること。
「絵画表現ⅦB」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	3020	授業科目名	卒業制作			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、樺山祐和教授、小林孝亘教授、小林耕平教授、諏訪敦教授、袴田京太朗教授、町田久美教授、丸山直文教授、水上泰財教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山晶子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業制作は通信教育課程での基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタート地点でもある。そのためにも結果を恐れず、それまでの学習体験を活かし、各々の資質にあった表現に向けての、精一杯悔いのない制作が望まれる。また、デッサンやエスキース等を積み重ねながら、テーマを絞り込み、それを画面にどのように組み立てて行くか、しっかりと手順を踏んで制作することも大切である。

【課題の概要】

自主制作（絵画作品）2点を制作する。通信授業、面接授業を通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。
支持体は木枠やパネルなどの丈夫なもので、サイズは80～100号（長辺162cm以内）。壁面に取り付け可能で、厚さ15cm以内とする。描画材は油彩等、その他自由。

【授業計画】

［通信授業］
学習指導書『絵画表現ⅦA/卒業制作 2024年度』の「卒業制作」、教科書『絵画の材料』『絵画の表現』『複合的表現－絵画からの展開－』を参照し、制作を進める。

［面接授業］
卒業制作における中間指導として、制作途中の作品を基にした指導を中心に、エスキース指導、制作工程計画、技術的問題、各種絵画的対処法等の指導を受けながらの制作。
・前半　第1～2日　午前：制作及び中間指導　午後：制作及び中間指導
・後半　第3～4日　午前：制作及び中間指導　午後：制作及び中間指導

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
絵画表現コースに所属していること。
絵画表現コースすべての必修科目を単位修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
絵画表現コース必修科目。
面接授業の受講条件は以下の通り。
今年度、卒業申請を行なっていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）
『複合的表現－絵画からの展開－』（武蔵野美術大学出版局　2005 年）

○学習指導書
『絵画表現ⅦA/卒業制作 2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	絵画表現基礎 Ⅱ						
授業コード	3030	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅱ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

この課題では「人を描く」ことがテーマとなる。対象として「人」を観察すると色、光、形など、目の前の「人」からは色々な要素が見えてくる。
「人」はとてもオーソドックスな対象であるが、決して色褪せることのない多様な要素を持つ絵画の代表的な題材の一つである。
　各人が自分の視点を通して制作に取り組み、それぞれの表現につながる発見を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題　「人を描く」
1-1　自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。
1-2　1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。
1-3　自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンバス１点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現基礎 IA・Ⅱ　2024年度』の「絵画表現基礎Ⅱ」を参照。
教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ～Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020 年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021 年）

○学習指導書
『絵画表現基礎 IA・II　2024年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 Ⅲ						
授業コード	3040	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅲ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。
何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（６日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

○面接授業課題「人物を描く」
1-1　人物(ヌード)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。
1-2　人物(着衣)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。

【授業計画】

○面接授業
第１日　オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）
　　午前：裸婦　午後：着衣
第２日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第３日　制作　午前：裸婦　午後：着衣→中間講評
第４日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第５日　制作　午前：裸婦　午後：着衣
第６日　制作　午前：裸婦　午後：着衣→講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ〜Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。
「絵画表現基礎IB」を同時に履修する場合は「絵画表現基礎IB」を先に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現基礎 Ⅳ						
授業コード	3050	授業科目名	絵画表現基礎 Ⅳ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、中村美穂講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。
授業ではこの４つの形式のうちの２つを選択し、版表現と関わりの深い本を題材にして、版を使ってオリジナルの手帳カバーと蔵書票を制作する。その中で表現の可能性を探り、それぞれの版種の基本技法を体験する。

※蔵書票：所蔵者を示すために蔵書の表紙・見返しなどに貼りつける、印刷された小票。書票。エクスリブリス。

【課題の概要】

○面接授業課題
前半で「リトグラフ」または「スクリーンプリント」、後半で「木版」または「銅版」のそれぞれ1版種を選択する（面接授業申込時に選択）。
1-1　ムサビ手帳のカバーを制作する。「リトグラフ」「スクリーンプリント」イメージサイズ21.5×16cm程度
1-2　自身の気に入っている本の蔵書票を制作する。「木版」「銅版」イメージサイズ10cm×10cm程度

【授業計画】

○面接授業
・前半　ムサビ手帳のカバー　「リトグラフ」または「スクリーンプリント」
第１日　午前：制作　　午後：制作
第２日　午前：制作　　午後：制作
第３日　午前：制作　　午後：制作及び相互鑑賞会
・後半　本の蔵書票　「木版」または「銅版」
第４日　午前：制作　　午後：制作
第５日　午前：制作　　午後：制作
第６日　午前：制作　　午後：制作及び相互鑑賞会

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ～Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。
受講の際は下図を必ず持参すること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	複合的表現 ＩＡ						
授業コード	3060	授業科目名	複合的表現 ＩＡ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、今井庸介講師、木村真由美講師、小森琢己講師、阿部英幸講師、大家泰仁講師、熊谷直人講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「フォト・コラージュ」
複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現方式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作する。

【課題の概要】

1-1　「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について200～400字で解説をする。

【授業計画】

学習指導書『複合的表現ＩＡ・ⅡＡ　2024年度』の「複合的表現ＩＡ」を参照。
教科書『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。
教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

◯教科書
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

◯学習指導書
『複合的表現ⅠA・ⅡA　2024年度』（武蔵野美術大学出版局　2024年）

【その他】

なし

科目名	複合的表現 ＩＢ				
授業コード	3070	授業科目名	複合的表現 ＩＢ	担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、小林耕平教授、袴田京太朗教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師

開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」・「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。
面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

【課題の概要】

○面接授業課題
「内的空間の表出」
1-1　「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。
2種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら、B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

【授業計画】

第１日　午前：前提講義及びドローイング　午後：ドローイング
第２日　午前：ドローイング　午後：中間講評及び立体制作
第３日　午前：立体制作　午後：立体制作
第４日　午前：立体制作　午後：立体制作
第５日　午前：立体制作　午後：立体制作
第６日　午前：立体制作　午後：立体制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
絵画表現コースに所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	複合的表現 ⅡA						
授業コード	3080	授業科目名	複合的表現 ⅡA			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」
ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してみることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。このような経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とする。

【課題の概要】

1-1　スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、
　　配置しない場合の状態をクロッキーする。
1-2　「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから1点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。
　　また、作品について200～400字で解説する。

【授業計画】

学習指導書『複合的表現IA・ⅡA　2024年度』の「複合的表現ⅡA」を参照。
教科書『複合的表現―絵画からの展開―』を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。
教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

○教科書
『複合的表現―絵画からの展開―』（武蔵野美術大学出版局　2005年）
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局　2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局　2021年）

○学習指導書
『複合的表現IA・ⅡA　2024年度』（武蔵野美術大学出版局　2024年）

【その他】

なし

科目名	複合的表現 ＩＩ Ｂ						
授業コード	3090	授業科目名	複合的表現 ＩＩ Ｂ			担当者	関口雅文教授、吉川民仁教授、小林耕平教授、袴田京太朗教授、阿部英幸講師、今井庸介講師、木村真由美講師、熊谷直人講師、小森琢己講師、大家泰仁講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松尾勘太講師、松村繁講師、水野暁講師、室井公美子講師、山田淳吉講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」
ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してみることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。このような経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

【課題の概要】

○面接授業課題
「場所から生まれるもの」
1-1　「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。

【授業計画】

第１日　午前：前提講義及びドローイング　午後：ドローイング及び場所選び
第２日　午前：制作　午後：制作（中間指導）
第３日　午前：制作　午後：制作（中間指導）
第４日　午前：制作　午後：制作（中間指導）
第５日　午前：制作　午後：制作および記録集制作
第６日　午前：記録集制作　午後：採点・講評・撤去作業

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「複合的表現ＩB」の単位を修得済であるか、同時に履修登録すること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 Ⅰ						
授業コード	3100	授業科目名	日本画基礎 Ⅰ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で用具を揃える、扱うといった初歩的なことから作品の制作をする準備から完成までの工程体験を中心に学ぶ。また日本画特有の骨描きやたらし込み、彫り塗り等の表現法や制作に必要な用法習得を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画を描く」
日本画の用具用材の紹介をもとに与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本彩色を通して用具の扱い方および制作工程の基礎となる準備から完成までの工程を体験する。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：前提講義／午後：制作のためのデッサン
第2日　　午前：トレース・水張り／午後：転写・骨描き
第3日　　午前：下地作り／午後：制作
第4～5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
日本画表現コースの学生は初年次に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 Ⅱ						
授業コード	3110	授業科目名	日本画基礎 Ⅱ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な写生と言われるデッサンの導入として、モチーフの観察や捉え方、その描写する方法などの本画制作に必要な記録法について学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題1「日本画のデッサン」
モチーフを良く見て観察し、画用紙に鉛筆デッサンをする。
・デッサンをする(部分的、クロッキー的、記録的な要素をふまえる)。
・細密描写をする。
・明暗、立体感をともなった細密描写をする。

○通信授業課題2「筆を使う」
筆の特性や使い方を知ることを目的に日本画筆を用いて描く。
・筆を用いて墨で描く。
・筆を用いて彩色する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2024 年度』の「日本画基礎Ⅱ」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書

『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 ⅢA						
授業コード	3120	授業科目名	日本画基礎 ⅢA			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

線を描くことは日本画では重要な位置を占める。その線は様々な描き方や表情を生むことができるが、描く、引く筆を使いこなす力を養うことも大切である。本授業では線の美しさや勢いのある線の練習をおこない、筆を扱う力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」
筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法で描く。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』の「日本画基礎ⅢA」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 Ⅲ B						
授業コード	3130	授業科目名	日本画基礎 Ⅲ B			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

古来の作品の鑑賞も含め古典描写をおこなうことにより、日本画の絵具がどのように扱われ使用されてきたかを探り、様々な技法や様式を検証することを目的とする。また、現状模写として描き再現することで、基本としての日本画素材を扱う方法や技法や工程の追求もあわせておこなう。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典模写」
古典の模本をもとに線描による模写と彩色による模写をする。

【授業計画】

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作・講評
第４日　　午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
第５日　　午前：講義及び制作／午後：制作
第６日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 ⅣA						
授業コード	3140	授業科目名	日本画基礎 ⅣA			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身近な人を題材に形態として、人の骨格、動き、自然造形の美しさを探り、日本画の素材を使って独自の表現を追求することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「人物を描く」
身近な人、または自己をモデルにクロッキーおよびデッサンをする。また、それをもとに日本画制作をする。
・ 人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
・ 身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
・ クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』の「日本画基礎ⅣA」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとに授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 ⅣB						
授業コード	3150	授業科目名	日本画基礎 ⅣB			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「身体を描く」
身体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義およびデッサン／午後：デッサン
第 2 日　　午前：デッサン／午後：デッサン
第 3 日　　午前：準備・下図・制作／午後：制作
第 4～5日　　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 Ⅴ						
授業コード	3160	授業科目名	日本画基礎 Ⅴ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶために、指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること、彩色することをおこないながら水や基底材がもたらす表現の可能性を様々な手法を用い体感し、構築すること、表現をすることを研究することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「構築1」
1-1　制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。

○通信授業課題「構築2」
2-1　静物をモチーフにスタンピングでデッサンする。
2-2　組み合わせた透明素材をモチーフに基底材と描画材をともに 3 種類選択し、デッサンする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』の「日本画基礎Ⅴ」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 ＩＡ						
授業コード	3170	授業科目名	日本画応用 ＩＡ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠（＝形象化）と構成について学ぶ。
絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。

【課題の概要】

○通信授業課題「意匠研究」
対象物を形象化、又、制作工程を意識した日本画制作をする。
・ 制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
・ 制作工程を意識した日本画制作をする。

【授業計画】

学習指導書『日本画応用ＩＡ・ⅡＡ　2024年度』の「日本画応用ＩＡ」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ｉ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ｉ」を受講後に課題に取り組むこと。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004年）

○学習指導書
『日本画応用ＩＡ・ⅡＡ　2024年度』（武蔵野美術大学通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 ＩＢ						
授業コード	3180	授業科目名	日本画応用 ＩＢ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠（＝形象化）と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

【課題の概要】

○面接授業課題「自己表現研究」
素材と意匠を考え、構成による独自の形で30号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業
第１日　　午前：前提講義（箔講義）及び制作／午後：制作（下図研究）
第 2～5日　午前：制作／午後：制作
第６日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ｉ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ｉ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画応用 ⅡA						
授業コード	3190	授業科目名	日本画応用 ⅡA			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

和紙等、様々な基底材の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。
和紙の特性を知り、染める、加工する等の基底材を考察したものを利用して制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「素材と技法」
天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを基底材とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。
・ 身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
・ 染めた和紙を使い、日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画応用ＩA・ⅡA　2024年度』の「日本画応用ⅡA」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004年）

○学習指導書
『日本画応用ＩA・ⅡA　2024年度』（武蔵野美術大学通信教育課程　2024年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 ＩＩ Ｂ						
授業コード	3200	授業科目名	日本画応用 ＩＩ Ｂ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

基底材と日本画絵具の関係は様々な表現の可能性を秘め、そこに個の扱い方が加わることでさらにその可能性が増す。本授業では基底材の研究として絹、麻を用いて日本画制作をしながら表現の探求を行う。

【課題の概要】

○面接授業課題「素材研究」
尺八サイズの絵絹とF15号の麻布に日本画制作する。

【授業計画】

○面接授業
第１日　　午前：前提講義及び制作準備／午後：制作
第２日　　午前：制作／午後：制作
第３日　　午前：制作／午後：制作・講評
第４日　　午前：前提講義及び麻布制作／午後：制作
第５日　　午前：制作／午後：制作
第６日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ｉ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ｉ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画表現演習						
授業コード	3210	授業科目名	日本画表現演習			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位（S1）	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画制作において、箔押しや裏打ちは必要になることが多くなる。その扱い方の講義をふまえ、演習を行う。

【課題の概要】

○面接授業課題
制作に必要になる箔押しや裏打ちの講義を行い、その体験をする。

【授業計画】

○面接授業
第１日　午前：前提講義及び箔押し実習／午後：前提講義及び裏打ち実習
第２日　裏打ち実習、レポート

【成績評価の方法】

面接授業課題（実習課題とレポート）の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。抽選の際は日本画表現コース所属の学生を優先する。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画応用 ⅢA						
授業コード	3220	授業科目名	日本画応用 ⅢA			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法との関係を探りながら自己のオリジナルな表現へと展開していく。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材である和紙と布との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を通信授業で追求、完成作品を目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「自由制作」
自己の制作をする為の資料として、各自それぞれの手法でデッサンし、又は素材の引用などを行い下図やアイディア画を描く。さらにそれをもとに日本画制作をする。

【授業計画】

学習指導書『日本画応用ⅢA・卒業制作　2024 年度』の『日本画応用ⅢA』、教科書『日本画　表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
油絵学科に所属していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004年）

○学習指導書
『日本画応用ⅢA・卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 Ⅲ B						
授業コード	3230	授業科目名	日本画応用 Ⅲ B			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法との関係を探りながら自己のオリジナルな表現へと展開していく。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材である和紙と布との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を面接授業で追求、完成作品を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「自由制作」
「自由に描く」をテーマに、自己の課題を考え、高い完成度を目標に50～100号の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業
第 1 日　　午前：前提講義（裏打ち講義）及び制作／午後：制作（下図研究）
第 2～5 日　午前：制作／午後：制作
第 6 日　　午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
油絵学科に所属していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	卒業制作						
授業コード	3240	授業科目名	卒業制作			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業　面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画の素材を使い自己の表現したいものをテーマに取り組む。学習の成果で得たものを十分出し、新しい日本画の可能性を示唆するような姿勢で、自己にとっても今後の指針を示せるような制作をおこなう。

【課題の概要】

日本画の素材を使っての作品制作 2 点とする。通信授業・面接授業を通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。描画材は日本画絵具。基底材は自由で、サイズは 80 ～ 100 号。壁面取り付け可能な木製パネルとする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画応用ⅢA・卒業制作　2024 年度』の『卒業制作』、教科書『日本画　表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業
卒業制作における中間指導と、後半は完成に向けての指導をおこなう。
・前半　第 1 日　　午前：前提講義及び中間指導／午後：中間指導
　　第 2 日　　午前：中間指導／午後：中間指導及び中間講評
・後半　第 3 日　　午前：前提講義及び制作／午後：制作
　　第 4 日　　午前：制作／午後：制作及び中間講評

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
4年次

○履修条件
油絵学科日本画表現コースに所属していること。
日本画表現コースすべての必修科目を単位修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース必修科目。
面接授業の受講条件は以下の通り。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004年）

○学習指導書
『日本画応用ⅢA・卒業制作　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画研究 Ⅰ						
授業コード	3250	授業科目名	日本画研究 Ⅰ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに通信授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○通信授業課題1「制作工程1」
・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
・興味深い場所や、特徴のある視点で選んだ対象をデッサンする。
・風景をモチーフに、色を用いてデッサンする。

○通信授業課題1「制作工程2」
・描いたデッサンをもとに小下図、大下図制作、本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2024 年度』の「日本画研究Ⅰ」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書
『日本画　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局　2004 年）

○学習指導書
『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ　2024 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2024 年）

【その他】

なし

科目名	日本画研究 Ⅱ						
授業コード	3260	授業科目名	日本画研究 Ⅱ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画の制作工程、日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに面接授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画の制作工程」
風景をモチーフに写生、小下図、大下図の工程研究を踏まえ日本画絵具を使って、F15号の紙本彩色をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：前提講義および制作のための風景デッサン／午後：デッサン
第2日　　午前：前提講義および下図・下地作り／午後：制作
第3日　　午前：制作／午後：制作
第4～5日　午前：制作／午後：制作
第6日　　午前：制作／午後：制作、講評
※ 学内取材あり。第 1 日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画研究 Ⅲ						
授業コード	3270	授業科目名	日本画研究 Ⅲ			担当者	室井佳世教授、石原孟講師、神彌佐子講師、杉山佳講師、星晃講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位（S2）	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために墨を使って制作する。附立てや風景等を題材に描いたものをもとに墨で大作を通して、独自の視点で捉えることと水がもたらす表現の幅がどのような可能性が示すかを追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「墨を使っての制作工程」
墨を使って様々なデッサン、それを使って本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、墨で大作を描く。

【授業計画】

○面接授業
第1日　　午前：前提講義および手本学習　午後：手本学習（附立て）
第2日　　午前：墨によるスケッチ　　午後：墨による表現、中間鑑賞
第3日　　午前：墨によるスケッチ　　午後：墨によるスケッチおよび講義
第4～5日　午前：墨による制作　　午後：墨による制作
第6日　　午前：墨による制作　　午後：講評・まとめの講義

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備　　考
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

なし